

高野公彦選

葛布織り茶を摘み畑耕して記憶の祖母は常に  
（福山市）倉田ひろみ  
エアコンの設定温度を1℃上げ一人に戻る九  
（奈良市）山添 聖子  
月一日  
☆村を出る君を見送る丘陵に太陽光パネルの建  
設の音 （安芸高田市）安芸 深志  
マンモスの牙守り来しシベリアの凍土溶けた  
し盗掘進む （観音寺市）篠原 俊則  
いい笑顔いつも言われるそれきつと毎日野菜  
と話しているから （菊池市）神谷紀美子  
思いのほか難所の多いソナタだねモーツァル  
トに小さく文句 （富山市）松田 わこ  
☆田園の中に居酒屋「田んぼ」あり蛙鳴くこと  
人へ眠ろう （三郷市）木村 義照  
スポーツ履見出しに勇氣もりの朝「挑戦」  
「飛躍」攻める「逆転」（新潟市）江口 康子  
「ではまた」と手を振る（とく）ゆらゆらと精  
霊舟は岸離れゆく （生駒市）辻岡 英雄  
熱帯夜の名残りごとめる西空にブルームーン  
（横浜市）松村千津子

【評】一首目、確かに昔の人は、働くことが趣味のように毎日よく働いていた。敬愛の思いで祖母を回想する作者。二首目、子供たちの夏休みが終わわり、節電生活へ。三首目、過疎化する村を哀しむ心。四首目、地球温暖化でこんなことが

永田和宏選

座り込み七千日を越えました座り込み隊を  
としく思ふ （名護市）玉城 光  
帰りたいといつも言っている入所者が家族の前  
では何も言わない （川崎市）川上美須紀  
「面会」という言葉の言葉よりなにか日々  
集わしし妻子と会う （和泉市）長尾 幹也  
じかじかに車をみながく友人にこの世は無常と  
言ってもむだか （大阪市）渡辺たかき  
川のぼる鮭は自分がこの川で死んでゆくのを  
知ってるだろうか （五所川原市）戸沢大 二郎  
☆村を出る君を見送る丘陵に太陽光パネルの建  
設の音 （安芸高田市）安芸 深志  
突然に「既読」がつかなくなった夜終着駅に  
も人影はない （横浜市）森 秀人  
ミサイルを防衛設備と呼ぶ国が汚染に非すと  
流す処理水 （東京都）土屋 進一  
☆カープごとに山の緑は濃くなりて風伝峠を越  
えれば熊野 （奈良市）山添 聖子  
数独は埋める過程に極意あり解答の図に解答  
はなし （尾道市）森 浩希

【評】玉城さん、六月、辺野古の基地反対の座り込みが七千日を越えた。座り計  
画ができるまで頑張ってきた「浜テント」の人々の、強い意志と誇りを皆が共  
有すべきだろう。川上さん、家族の前では帰りたいと言わない入所者の微妙な心理

馬場あき子選

スパーに「昆虫釣り」の店見ゆちらが遊  
びに命釣りよ （観音寺市）篠原 俊則  
土埃立ておる赤色トラクター夏の畑に無敵ザ  
リガニ （岐阜市）後藤 進  
ひとりの旅バリ裏町の食堂にザリガニ食ひし真  
昼ありけり （鹿嶋市）加津幸根夫  
悪臭のあまりの強さにカメムシは死ぬものも  
ありと聞く過剰防衛 （福島市）澤 正宏  
友と行くニューオープンのカフェテリア意外  
な上司が教えてくれた （富山市）松田 梨子  
立ち売りの力餅買う味駅奥羽本線はつあきの  
旅 （仙台市）沼沢 修  
みこし減り夜店も減りしお祭りの花火の音は  
天上を突く （飯田市）草田 礼子  
こちらもか国産の竹青たすに茶釜は倍の値に  
なると聞く （下呂市）河尻 伸子  
茸狩り一子相伝と言はるるも祖父は誰にも告  
げず逝きたり （前橋市）荻原 葉月  
よく転びよく立ち上がるみどりこは草の匂い  
をたしかめて歩む （稲沢市）山田 真人

【評】第一首の子供相手の出店は金魚ならぬ「昆虫釣り」。釣られた昆虫たちは  
遊ばれたあと死を迎える。下句はすばり切ない。第二首のザリガニは畑や土にも棲  
む。第三首はバリ裏町の食堂でザリガニを食べたとか。

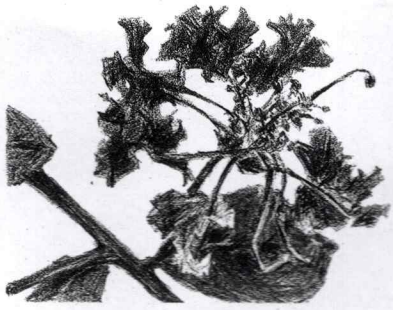
佐佐木幸綱選

ガソリン車なきツェルマットを行く馬車上青  
天を衝くマッターホルン（東京都）樺 泰文  
盆北が吹けばたちまち秋がくる漁師のことは  
今はなつかし （香南市）篠崎美代子  
若き日の所作おぼろげにゆらり舞うホームの  
母のおわら風の盆 （三鷹市）大谷トミ子  
☆田園の中に居酒屋「田んぼ」あり蛙鳴くこと  
人へ眠ろう （三郷市）木村 義照  
電柱の影で涼んでみたものどうやったって  
私が見み出る （会津若松市）清野 智子  
☆カープごとに山の緑は濃くなりて風伝峠を越  
えれば熊野 （奈良市）山添 聖子  
「処理水」と必死に言いかえねばならぬ我ら  
は何とたたかっている （佐渡市）藍原 秋子  
花の名を知らない吾と星の名を知らない友が  
語るアルプス （神戸市）松本 淳一  
物音に庭を覗けばアライグマ両手を合はせ吾  
を見てをり （町田市）山本喜多男  
新聞の折り込みに読む樹木葬明るく誘う死後  
のイメージ （仙台市）沼沢 修

【評】第一首、ツェルマットはアルプスの登山口として知られるスイスの町。澄  
んだ空気を背景にマッターホルンの大景が美しい。第二首、「盆北」は旧暦の盂蘭  
盆の頃吹く北風。第三首、現在の母の動作をうたう上句の表現がなんとも切ない。

朝日

歌壇 俳壇



〈サルスベリV〉 日高理恵子

うたをよむ 金子兜太と齋藤慎爾

にしし洋子

俳句は「世界一短い文学」として世界  
に多くの作家がいる。私たちの月刊「俳  
句四季」は写真と絵をふんだんに使って  
美しく、悪口を言わない、生命感を大切  
に、地方の優れた俳人も紹介したいとい  
う思いから、一九八四年に創刊した。も  
う四十年が経とうとしている。創刊号の  
選者は原裕、波多野爽波、細見綾子のお  
三方に引き受けていただいた。  
流行という服を身に着させさせるのがフ  
ァッションデザイナーなら、俳句的思考  
（五七五）で、現代の出来事を「最短詩  
型」で表現するのが俳人。私には忘れ得  
ぬ二人の俳人がいる。  
一人は金子兜太さん。兜太さんは言っ  
た。「私は耳が良いんだ。だから入の話  
をよく聞ける。耳は大事だ。人の話を聞  
けない人は伝えることができないから」  
と。戦場体験の話はご自宅で、幾多の講  
演もお聞きした。《響曲し火傷し爆心地  
のマラン》は長崎で詠まれた句。初め  
てお会いした頃に「なんでも書くよ。好  
きな句は？ どの句が良いか」と言わ  
れ、《梅咲いて庭中に青鯨が来ている》  
の句を色紙に書いていただいた。  
もう一人は深夜叢書社主の齋藤慎爾さ  
ん。「僕は作品が良いと思う人の本を出  
したい。ただどね、良い本と言われるも  
のは売れないんだ」。そう言い続けて、  
作り続けた。「俳句の究極は五七五で詠  
まれるが、季語を五音で表したとして、  
残る十二音で全人生、全宇宙を表現す  
る」。《鼻や聞のはじめは白に似て 慎  
爾》。身内以外で骨揚げをした後世に残  
るお二方との時間が、私の心の裏に刻ま  
れている。（「俳句四季」発行人）

記者サロン「歌人・科学者 永田和宏さん×A  
I短歌」永田和宏さんを迎え、AIを使いなが  
ら歌や創作について語る催しを10月28日に朝日新  
聞東京本社で開きます。定員は120人（抽選）。  
締め切りは9日。11月2日から12月25  
日までオンラインでも視聴可能。申し  
込みは募集ページ（http://t.asahi.c  
om/wn7z）、またはQRコードから。



☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メデ  
ィアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿  
は無地のほかき1枚に1作品、未発表の自作のみ。作品  
の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴  
海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝  
日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。